平成２３年度　香蘭女学校中等科（国語）　解答・解説

解 答

一

問一　〔そのわきの橋が少女にとって〕**心の中にさまざまな想像を起こさせる特別な橋だった**〔から〕

問二　**イ**　　問三　**ウ**　　問四　**ねこ！　ほんと？**

問五　Ａ　**ウ**　Ｂ　**オ**　Ｃ　**イ**　Ｄ　**エ**　Ｅ　**ア**　　問六　**イ**　　問七　**つけ**

問八　１　**この橋をわたっているのはなにかという、長いあいだのなぞが解けてほっとする気持ち。**

　　２　**橋のなぞがあきらかになって、想像の世界がせばめられたことをがっかりする気持ち。**

　　３　**橋をわたっていたのが、自分の想像していなかった鳥だったと知っておどろく気持ち。**

問九　１　飛び立つ　**目標にまっすぐ進む**

　　歩く　　**想像の世界に遊ぶ**

　　２　**イ**

　　３　**いまは想像の世界に遊んでいる自分も、いつかは、現実の世界に飛び立たなければならない。そのときには、これまでつちかってきた想像力が自分を飛躍させる力となることだろう。**

二

問一　①　**お**〔り〕　②　**横断**　③　**いっこう**　④　**吸収**

　　⑤　**器官**　⑥　**側面**　⑦　**しゅ**　⑧　**保**〔って〕

問二　１　**全・悪の区別にふりまわされたり、孤独を感じてさみしがったり、死を恐れたり、生きることの意味に悩んだりする様子。**

　　２　**自己を意識できるという、自然の枠をはみ出した存在であること。**

問三　**e**　　問四　**エ**

問五　Ⅰ　**ア**　Ⅱ　**すぐに**　Ⅲ　**はっきりした**

問六　初め　**だからこそ、**　終わり　**いわけです。**

問七　**ウ**　　問八　**イ**

問九　**自己の中に〈見る私〉と〈見られる私〉とが存在することを自覚し、〈見る私〉の力を借りて自己を裁くこと。**

解 説

一

問一　文中に「その橋はかの女にとって、心の中のありとあらゆるものをとおすことのできる橋だったし……」と書かれています。だから特別なのであって、「ごくふつうの橋」ではないのだというわけです。このままでも解答となりうると思われますが、「心の中のありとあらゆるものをとおす」というのは一般的な表現ではありません。この文章の中で、筆者が特別な意味をこめて使っていることばです。「心の中のありとあらゆるものをとおす」とはどういう意味なのかを説明することを求められているのかもしれません。

問二　「申しわけばかりの」には、形だけの、体裁ばかりのという意味があります。

問三　「土手にしげった木々の落ち葉さえ」と書かれていますが、この「さえ」は、直前の「らんかんは……」「板張りも……」に、「落ち葉」をつけ加えたことを表しています。「寒いうえに、風さえでてきた」の「さえ」と同じ用法です。こう考えると、「らんかん」も「板張りも」「木々の落ち葉」も、橋のみすぼらしさを表すものであることがわかります。

問六　直前に「その橋をわたっていゆくさまが目にうかび……」と書かれています。このことばをうけて「それ（想像にひたること）で満足していた」のだと考えればいいでしょう。ただし、このあとに「――なあんだ、うそばっかり」と書かれていますから、この時点では、「うそ」だと知っていたわけではなさそうです。

問八　まず、少女の長いあいだ心にかかっていた謎がとけました。しかしその結果、少女の想像の世界がせばめられました。これからあとでは「さまざまな人間（どろぼう）や動物や、そのどちらでもないもの（ゆうれい）など」を想像することはできなくなります。また、橋をわたっていたのは少女が想像していなかった鳥でした。これらが少女の「ためいき」の原因であることをはっきりとさせましょう。

問九　１～３の設問を想像的に考えることで設問の意図がはっきりします。

１　この場合の「いざとなればすぐ飛びたつ」「ときに歩く」は、たんに鳥の生態を述べたものではなく、この少女自身について述べたものです。したがって、この少女の場合、「飛びたつ」とはどういうことかと考えましょう。また「飛びたつ」と「歩く」とは対照的なことであり、いままで少女がこの橋を見て、想像の世界に遊んできたことが「歩く」にあたるのだと考えてみましょう。さらに、２の選択肢も参考になります。ア・イ・エには「夢見る少女の時」「大人になれば」「少女の時の夢」などということばがあります。これはつまり、「夢見る少女の時（い

ま)」と「大人」とが対照的なものであることを示しています。これらと「自分がやがて鳥になって空をかける……あの橋から飛びたってゆく」ということばとを関係させると、「飛びたつ」とは大人として生きること、「歩く」とは少女として夢を見ていることを比喩しているのだと考えられます。

2　直後に「その橋は……だったし、自分がやがて……飛びたってゆくのだ」と書かれています。これは少女の中で橋の意味がはっきりしたことを表しています。

3　1・2をもとにもういちど「飛びたつ」とはどういうことを表し、少女にとって「橋」とは何だったのかをあきらかにすると、書くべきことが決まっていきます。

二

問二　1　――線(1)には「風に吹かれて……根がないので、とても不自由しています」と書かれています。「不自由している」ことを「風に吹かれて……」と比喩的に表現しているわけですから、この部分を「根がないので、風に吹かれて……言ったりするんです」と言いかえることができます。これと同じことが最終段落に書かれています。「〈根〉がないために、人間は……悩んだりするのです」の部分です。さらに、このあとに「実に不自由な生き物だ」と書かれていますから、「風に吹かれて……」とはどういうことなのかが、ここに書かれているとわかります。

2　最後の三つの段落に着目しましょう。人間とはどういうものかがまとめられています。そこには、まず「〈自己を意識している〉のは人間だけなのです」と書かれています。このことを、「人間は自然の枠からはみ出してしまっています」とか「人間の意識が〈生→死〉のサイクルからはみ出てしまっている」とか「人間が自分の死を意識している」などと表現しているのです。人間の根本は〈自己を意識している〉ことです。

問三　ほかの動物にはあって、人間にだけない「根」を選びましょう。ａ～ｄはトラやネコにもないもの、ｅはトラやゾウにはあるのに、人間にはないものです。

問四　この解剖は「人間は自然とつながっているのでしょうか」という問いに答えるためのものです。それに対して「(人間は) ネコや犬と大して変わらぬ」という事実を示したのは、「人間は自然とつながっている」と答えるためです。

問五　Ⅲ「れっきとした」は、もともとは「歴とした」ということばです。「歴」から「歴然」ということばを思い浮かべると答えがわかります。

問七　「例えば、子犬が……」以降は、その直前に書かれている「人間には本来の自然にはありえないような側面が備わっている」ことを示したものです。この観点から、人間だけが異なっているという視点の回答を選びます。

問八　人間だけがちがうわけですから、人間はどうなのかを考えましょう。人間だけが「自分の死を意識することができる」のですから、ほかの動物にはそれができないというわけです。

問九　直後に「人は自分自身を裁くことができます。それは人間の意識が、〈見る私〉と〈見られる私〉に分裂しているからです」と書かれています。人間はだれでも「自分自身を裁くこと」ができるというわけですが、それでは、王さまが「うまく裁けたら」とか「賢い人間だ」と言っている理由がわからなくなります。だれでもできることだけれど、それをよりうまくおこなうためには、「〈自己を意識している〉」その「〈自己意識〉」を最大限にかつ適切にはたらかせる必要があります。そこまでふれるべきでしょう。